

はじめに

いまこの本を手にとってくださっているのはどんな人でしょうか。目に見えない読者の方々にこの本がどんな風に届くのか、わくわくするような、少しこわいような、そんな気持ちでいます。

私は現在、神奈川県にある女子大で労働法を教えています。学生のおよそ9割がバイトをしています。私が大学で唯一の労働法の教員ということもあり、近年は、私の研究室が半ばバイトお悩み相談所の様相を呈しています。「行列のできる労働相談」というと売れっ子みたいですが、いかに今の学生バイトが問題山積みかということを実に表しているのだと思います。

本来、仕事の現場はもっと楽しく、すべての人が生き生きと過ごせる場所であるはずですし、そうした環境は作れるはずです。労働者が心身共に健康な状態で安心して働くことができる環境を整備するのは使用者の責務ですが、労働者も、自分がどんな権利を持っているのか、おかしいと思ったときにどう声を上げるのか、知っておかなくてははいけません。労働法の知識を身につけることは、自分だけでなく、自分の周りの大切な人たちを守ることにもつながります。

本書は、これから社会人となる学生のみなさんや、社会人として働き始め、職場で様々な疑問を持ち始めた人たちをメインの読者対象にした、入門的な労働法のテキストですが、オンラインゲームという“非リアル”な空間で知り合った、北から南まで日本各地で暮らす6名の若者たちが、チャットでの他愛のないやりとりから、期せずして‘リアル’な労働問題を考えていくといったストーリーで作られています。本書に収まりきれなかったさらなるリアルなテーマは、「さらに考えてみよう」というコーナーで、設問形式で挙げています。

では、6人の若者たちと一緒に、‘リアル’な労働法を見ていきましょう！

2021年3月

緊急事態宣言発令中の東京にて

編者を代表して 奥貫 妃文